

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成24年5月6日	評価結果市町村受理日	平成24年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200917&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200917&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年6月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

食事の献立は職員が立てており、準備、調理を利用者さんと共に行っている。同じ物を同じ時間に、同じテーブルで食す事で会話も弾み、信頼関係作りに活かされているだけでなく、個々の細かい味の好みまで把握する事ができており、満足して頂いている声が多く聞かれる。利用者さんは自身の食器、箸を選ぶ事が出来る為、箸を取ってもらったりと、可能な所は自身でもらえるよう支援している。個々の能力、意欲、体調に応じて、清掃や洗濯物たたみ、調理の補助、配膳、下膳、食器拭き等の日常作業を職員と共に安全面に配慮しながら行い、必ずお礼の言葉を伝える事で、ホームでの役割があり、必要とされているという充実感や完了時の達成感、感謝される喜びを感じてもらえるように努め、利用者さんと職員が共に笑い、悲しみ、喜び合える関係作りに努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

医療法人が設立した2ユニットのグループホームである。市の中心部に位置しており、利用者が出かけやすい環境にあり、近くの商店への買い物など、積極的に外出支援をしている。「一人ひとりの生き方を大切に」という理念を掲げ、管理者と職員は、利用者の希望や意向を尊重したケアに熱心に取り組んでいる。居室は、利用者の趣味を大切に居心地のよい空間になるように工夫し、飲酒の習慣がある利用者には、適量のビール等を夕食に提供するなどして、家庭的な雰囲気の中でホームを運営している。健康管理、食事管理、衛生管理をきちんとしており、利用者が穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作り上げた理念をホールと事務所に掲げ、日々利用者主体のケアを目的とした情報共有を行い、共に楽しみ、悲しみ、喜び合える関係作りに努めている。	3つの理念「一人ひとりの生き方を大切にする」、「利用者の立場で状況判断をする」、「生活の場がホームにとどまらないように外に出よう」を全職員が共有して、日々のケアの中で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭りや清掃等の行事には積極的に参加しており、近くの美容室や店を利用する事で、外出時に時折、利用者さんの知人に出会い、談笑する等の交流も図れている。	地域の祭りには全員が参加し、環境美化の日には、利用者が清掃活動にも出ている。近くの美容室や商店が気軽に利用できるように積極的に支援している。自治会には参加していない。開設時には、地域を担当する交番にあいさつに出かけている。	新任の公民館長や民生委員、地域包括支援センター担当者等と連携して、地域とのつきあいをより強化されるように期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けた情報発信は、推進会議での研修報告以外では特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて、外部評価の意義や結果を議題としてあげ、サービスの質の向上に努めている。2カ月おきの定期的開催予定を立て、実行中。	昨年度は運営推進会議の開催が2回と少ない。今年度は、第1回として4月に開催しており、ホームの活動状況や年間行事等の報告、認知症の治療薬についての説明も行い、家族および利用者も出席している。	運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者や民生委員にも出席を依頼し、2か月に1回の開催および内容の充実を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議等で、市の担当者より意見やアドバイスを受けていたりしている。	昨年度は、運営推進会議に市の担当者が出席している。市の担当者とは、電話連絡が主であるが、指導を受けながら協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「虐待防止法・身体拘束等の排除」に関するマニュアルがあり、身体拘束の定義を正しく理解し、利用者が心身ともに明るい生活を送れるように努めている。	利用者の事例を基に、職員研修を実施している。原因と対応について、職員間で意見を出し合い、身体拘束をしないケアについて真剣に取り組んでいる。1階および2階も開放的で、明るいホームになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義、具体的な行為を学ぶ機会を持ち、日々職場内でそのような行為がないか互いに指摘しあい、見つめ直すように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成23年度は、権利擁護に関する制度の理解と活用について、ホーム内外で学ぶ機会が持てなかった。新しい職員が殆どなので、まず、ホーム内での勉強会を開催していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、相手方の話をしっかり聞く事で、理解、納得した上での契約締結、解約を図っている。改定等は文章等で説明、郵送している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情処理担当者を置いており、研修会への参加もある。また、ホーム内に市町村、県の苦情相談の窓口の電話番号を掲示している。すぐに対応できるものについては職員間で話し合い、迅速な対応、改善に努めている。	利用者ごとに担当者を決めており、担当者は、個別対応をしながら家族と密に連絡を取っている。家族から、足腰が弱っているの外出の機会を増やしてほしいとの要望があり、迅速に対応している。	利用者のホームでの生活を家族等に情報提供（ホーム便りの作成など）し、意見や要望を引き出し、運営に反映させるような取組に期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者（管理者）が常に職員会議に出席し、会議で出た意見、提案等、改善可能な事は柔軟に対応している。	職員会議（月に1回開催）では意見を出し合っており、記録もきちんと整理されている。管理者と職員は、コミュニケーションが良好であり、ホームの運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が心身共に負担を感じる事なく、仕事ができるよう、職員や非常勤職員を十分に配置したり、利用者に目が行き届くよう配慮している。また、時間通り仕事が終わるよう、働き易い環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合った研修参加の機会を設けている。また、希望する研修がある場合、勤務に支障がない限り受講できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換する場に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日よりじっくり話を聞く時間を作り、細かな仕草や表情から心情を読み取りながら、一番適切な接し方を模索し、利用者さん側から気軽に声を掛けられる雰囲気、関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入所後も、対話にてご家族の要望、意見を聞きだし、利用者さんを共に支援していく上で、互いに良き相談相手として支えあっていけるよう、経験からの意見等もしっかりと伝えつつ、気軽に相談できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、利用者さんの身体的、精神的状態や困っている事を把握しながら、本人とご家族が今、必要としているサービスが行えるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に料理や掃除、身の回りの作業を行い、知恵や昔の地域の様子など、利用者さんの年代だからこそ知り得る事に教えを乞い、職員からは現在の地域の様子等、新しい情報を提示する事で、互いを認め合い、ともに笑い、悲しみ、喜ぶ事の出来る関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、それに対し、意見や要望をその後の介護計画へ活かすと共に、問題浮上時には職員と共に外出先へ出向いて頂いたり、ご家族より直接話をして頂いたりと協力を得られている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、馴染みの美容室に外出されたり、友人、知人を連れて来られる事もある。また、職員と共に地域の店を利用する為、そこで知人に出会い、店内で談笑する事もあり、馴染みの人や場所との関係継続支援に努めている。	友人、知人がホームを訪れて、利用者といっしょに外出をするなど、なじみの人との関係継続を大切にしている。利用者がはがき(ぬりえ式)や年賀状を書くための支援の準備はしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性や状態を把握し、うまく関係を築けている時は、必要以上に踏み込まず見守り、介入が必要な場合には、職員を交えながら、本人の苦にならない程度で他者とのコミュニケーションを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、サービス利用終了後も継続的な関わりを必要としたケースはないが、ご本人やご家族からの相談があったり、必要である場合は対応する用意はある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者さんに担当を付け、互いに気付いた事を日々のケース記録から1月毎のモニタリングに落とす事で、状態、要望の変化に迅速に対応できるよう努め、言語コミュニケーションだけでなく、表情、視線、仕草等の非言語コミュニケーションからも察する事が出来るよう、日々気持ちに寄り添いながらの支援を心掛けている。		利用者にそれぞれ担当を決めて、ささいな思いも的確に把握するように努め、申し送りノートに記録して、職員が情報を共有している。困難な場合は、日々のケアの中で利用者の視線や頭の振り方等で意向の把握をし、本人の気持ちを尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族に生活歴等の情報を提供して頂き、日々の対話の中で、ご本人からも自身の事を多く語ってもらう等して、情報を引き出せるように努め、全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1月毎に日々のケース記録を見直し、まとめる事で、個々の現状を把握できており、職員間で意見交換を行い、正確な情報の共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来苑時、ご本人と共に意見や要望を聞き、それを基に担当者会議を行い、利用者さんを主体としたご家族、職員の3方向から見た、最適な介護計画を立てられるよう努めている。		介護計画は、本人、家族、利用者の担当者、職員会議など、全ての意見を反映して作成している。月1回のモニタリングにより、現状に即したケアができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では、表情や感情の変化等、細部まで記載し、それを1月毎にまとめ、現状の問題点、改善点を明確にしたものを基に、会議で各利用者さんのケア方針について意見交換し、見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが変化するに伴い、いかに支援していくか様々な視点から考え、ご家族の意向も取り入れながら協力を得て、ご本人が必要とされるサービスが受けられるように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、ふれあい祭りに積極的に参加したり、誕生会等のイベントに地域のボランティアの方に来ていただいたりと、機会は多くないが交流を持っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族と話し合い、希望する医療機関を把握し、受診できるよう支援している。	入居時に、本人および家族と話し合いをして、希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。若年性認知症の利用者については、専門医の受診が継続できるように、家族と協力している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に医療機関があり、常時連絡を取れる環境にある。利用者さんの健康管理、医療活用の支援等、必要に応じて的確、迅速な対応を受ける事が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した場合、ご家族や病院関係者からご本人の病状、心身の状態、回復の度合い等の情報をもらい、早期退院できる様努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、終末期ケアは行わない事を原則としているが、専門的治療を伴わない場合、又は身体機能、病状の悪化が見られ、年齢等を考慮してご家族が専門的治療を望まない場合は、病院と連携しながら出来るだけの医療、看護、介護を行っている。	原則として、終末期ケアは行わない方針であるが、重度化した場合はかかりつけ医の指示により、家族と話し合いをして決めている。家族がホームでの終末期ケアを希望する場合は、医療機関の協力を得ながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、常備しており、主治医への迅速な報告を徹底している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、昼・夜想定避難訓練を実施しており、利用者さんにも参加してもらっている。事務所内には非常食も常備している。	年に4回の避難訓練を実施し、その中の1回は消防署立ち合いの訓練をしている。3日分の水や食料を備蓄し、カセットコンロを常備、おむつも準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の念を忘れずに、利用者さんの立場に立った言葉掛けや対応を心掛け、居室を訪問する際には、家と同様に考え、入退室に対して断りの言葉を述べる等、プライバシーの保護にも配慮している。	利用者には、「〇〇さん」と姓で呼びかけ、一人ひとりの人格を尊重した丁寧な言葉で対応している。1号館は各居室に浴室、トイレが設置されており、物理的にもプライバシーの確保が可能である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択可能な場合は、ご本人の言動をよく観察し、意思を尊重し、決断が困難な場合は、ご本人を主として適度にアドバイスをしながら、自己にて決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、利用者さんの意思を尊重し、対応するよう心掛けている。団体での活動が苦手な方には、自室にて出来る事やご本人の意思に沿った個人活動等を支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて身支度の出来る方は、見守りのみ行い、介助が必要な方も、ご本人の意思や好みを考慮し、選択肢を提示する等の支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の意欲、体調、能力に応じて、食材切りから注ぎ分け、配膳、自己の箸の準備、下膳、食器拭き等を職員と共同で作業を行い、利用者さん、職員共に食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべての事をこなしている。	利用者の状況に応じて、食事の準備や片づけを一緒に行っている。利用者と職員が共に食卓を囲み、さり気ない介助をしながら、楽しい食事の時間を過ごしている。希望者には、夕食に少量のアルコール飲料も提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を記録し、水分摂取が少ない方は好みの物等を工夫し、1日の摂取量を量る事で、変化を把握する事が出来ており、肉、魚、野菜等をバランス良く献立に取り入れている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	殺菌作用を目的に、うがいにお茶を使用し、食後の口腔ケアで義歯洗浄剤も使用する。声掛け、誘導し、個々の自立に応じた支援で、口腔内が清潔に保てるようにしている。			

宮崎県都城市 グループホーム小松原（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、時間毎だけでなく、ご本人の様子を観察しながらトイレ誘導を行い、体調に応じて出来る限りトイレでの排泄を促している。以前より排泄の失敗が減少している。		時間だけでなく、利用者の行動を観察してトイレ誘導を行っている。おむつは、一人だけ夜のみ、日中はパットを使用している。1号館の利用者は、居室に設置されているトイレでゆっくり排せつができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のレクリエーション内に、体操とゲームを通しての運動を取り入れており、参加を促している。職員が立てる献立に、食物繊維の多い食材を取り入れるよう配慮している。日々の排便状況も個々にチェックし、便秘が続く場合は、主治医への相談が来ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	居室に個々の浴室が設置しており、プライバシーの保護が来ている。曜日、時間帯は決められており、好きな時に入る事は出来ないが、時間内に声掛けをし、希望者から順に入ってもらうように支援している。拒否のある場合は原因を把握し、ご本人と共に打開策を思案し、入浴できるよう支援している。		入浴は週に3回と決めているが、毎日入浴を希望する利用者については、意向を尊重して対応している。1号館では各居室に浴室が設置しており、それぞれ居室の浴室で家庭的な雰囲気の入浴ができるように支援している。好みの入浴剤を入れるなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は、ご本人の使い慣れた物等をご家族に持参して頂き、定期的に洗濯（汚染時は常時）し、清潔な物で休めるように支援している。また、居室の空調管理を行い、体調や気分に応じて、いつでも自室で休息出来るように声掛け、配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、ケース記録に綴じ、変更があれば必ず申し送りに記載し、全職員で確認している。また、変更後症状に変化見られた時点で主治医に報告、指示を受ける事ができている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒習慣のある方には、適量のお酒の提供をし、料理や清掃等、職員や他者と共に談笑しながら作業する機会を多く作っている。共同作業が苦手な方には、自室で趣味を活かした制作を提案し、ご本人の意思により実践している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調を考慮し、近くの公園や保育園付近まで散歩に出たり、車にて日用品の購入等にも出掛けたりしている。帰宅願望が強い場合は、ご家族と連絡を取り、外出の協力を得られるよう働きかける事もある。		理念の1つが「生活の場がホームにとどまらないように外に出よう」であり、散歩や買物を積極的に支援している。夕食にビールを楽しんでいる利用者が、近くの商店まで職員と共にビールを買いに出かけるなど、日常的な外出を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所側がしており、買い物は個々の預かり金から職員が支払いをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族や知人から手紙等が届いた場合は、ご本人の意思に沿って返信の支援をしたり、訴えがある場合は、電話を掛けられるようにしている。ある利用者さんのご友人にはホームの連絡先を伝え、いつでも掛けてもらって構わない旨伝えている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、四季に応じた壁画等を利用者さんと共に制作し、季節感を感じられるように支援している。廊下に貼り出した写真を見て、利用者さん同士で談笑している事もある。	台所に隣接して、居間兼食堂があり、生活音を聞きながら談笑できる空間になっている。廊下には、利用者の作品や写真を貼って、季節感を採り入れている。食事の間はテレビを消して音楽を流し、居心地のよい空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて談笑する事が多いが、玄関先のソファで、気の合った利用者さん同士で語り合ったり、居室を歩き来している。1人になりたい場合は、いつでも自室に戻り、静かに過ごせるよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、布団、タンス等、慣れ親しんだ物をご家族に持参してもらい、出来る限りご本人の意思に沿い、職員、ご家族を交えて相談の上、居心地の良い居室作りに努めている。	男性歌手の大型ポスターが壁に数枚貼ってある居室、にぎにぎしい居室、物を置かないシンプルな居室など、一人ひとりの意向や趣味を尊重した居室作りに努め、家族の協力も得ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等、自分のものと認識出来ており、排泄時はホールからでも自室へ行き、用を足す事が出来ている。同時に、「自己にて清掃する」という意識もあり、実行できている。			